

Asiaを読む 台湾を巡る攻防、米中衝突リスク 元NATO欧州連合軍最高司令官 ジェームズ・スタブリディス氏

2020/10/10付 | 日本経済新聞 朝刊



11月の米国の大統領選挙が近づく中、同国と中国の関係は数十年の間で最悪レベルの状態にあるようだ。発火点になる危険が高まっているのは、台湾だろう。

台湾の国防部（国防省）は9月18日、中国の戦闘機が台湾海峡の中間線を越え、台湾側に侵入したと発表した。中国軍は翌日、爆撃機が米軍のグアムのアンダーセン基地に似た目標を攻撃する動画を公開した。

衝突のリスクが高まっているのは明らかで、中国はさらに緊張を高めるため、事件を誘発させようとしているのかもしれない。米国は実際、台湾の承認を検討しているのだろうか。トランプ政権が承認を試みた場合、どのような結果が予想されるだろうか。

米国と台湾が接近している強い兆候があるのは確かだ。9月の中国の戦闘機侵入は、クラック米国務次官（経済成長・エネルギー・環境担当）が台湾の李登輝・元大統領の告別式に参列し、台湾の蔡英文（ツァイ・インウエン）総統らと会談したタイミングだった。8月にはアザー米厚生長官が訪台していた。

中国の戦闘機侵入に対し、台湾空軍機も緊急発進し、厳戒態勢を敷いた。蔡総統は、中国共産党に対し、自制して挑発行動を取らないよう求めた。中国側は、台湾の動きを「火遊び」としている。

米国の発言も好戦的となっている。スティルウェル米国務次官補（東アジア・太平洋担当）は、中国を「無法なごろつき」と非難した。同時に、米紙などによると、米は台湾に巡航ミサイルなどの売却を検討しているという。トランプ政権は既に、F16戦闘機の追加売却を正式に決定したようだ。

米大統領選を控え、米中の対立は一層の激化も予想される。アフリカのサハラ砂漠以南や中南米といった新興市場での影響力を巡る競争が続く中、大統領選の勝者は、台湾の承認を検討したいという誘惑にかられるだろう。

承認への動きがみられれば、米中関係に甚大な影響を及ぼし、中国による本格的な台湾侵攻の引き金になりかねない。手に負えない状況となり、今度は中国の台湾攻撃に対する米国の軍事行動を呼び起こしかねない。

今後、米国による中国への敵対的な行動にあらためて注目する必要がある。米高官の再三の訪台や戦闘機のグアムへの移動、取引企業が半導体を守るのを禁じる中国企業への追加制裁などが含まれる。

実行されれば、中国の習近平（シー・ジンピン）国家主席は、台湾海峡での軍事行動をさらに強化する時期が来たととらえるかもしれない。大統領選後に米国内で混乱が生じればなおさらだ。

中国が戦闘機侵入に加え、ほかの軍事行動をとる可能性もある。台湾周辺の海域での大規模な軍事演習やサイバー攻撃を通じたかく乱などがありうるだろう。海警局や漁船による攻撃的な動き、外交戦略、正しくない情報を拡散するキャンペーンを展開するかもしれない。

世界はどのように対応するだろうか。国連での外交的抗議や中国製品への経済制裁などが考えられる。米中それぞれの海軍による攻撃や地上部隊の配備は、両国が回避したいと考える大国同士の戦争に発展する恐れもあり、可能性は低いだろう。

米国による台湾の承認は、米中や東アジア地域、もちろん戦場となる可能性のある台湾にとって予測不可能で極めて危険な結果をもたらすのは間違いない。米中の国内政治が、危険な結果に向けて駆り立てられないことを願う。

関連英文はNikkei Asiaサイト (<https://asia.nikkei.com>) に

James Stavridis 元米海軍大将。2009～13年北大西洋条約機構（NATO）欧州連合軍最高司令官。米タフツ大フレッシャー法律外交大学院長を経て、カーライル・グループ所属。